

令和元年度 赤穂市学校評価 外部評価報告書

学校園名 赤穂市立 赤穂東中学校

総合的な学校関係者評価

1 本年度の学校経営方針

【学校教育目標】 『若木の精神』を『誇り』とし ころ豊かな生徒の育成
～『志』高く、実行力ある、活力ある学校をめざして～

【学校教育目標の具現化への基本方針】

- (1) 「心」あるあいさつと思いやりの心の充ちる生徒の育成に努める。
- (2) 「個」をつなぎ、「考」を紡ぎあう『学び』から、さらなる高みを求める態度を養う。
- (3) よりよい生き方を目指し、『夢』と『志』を持つ豊かな人間性を培う。
- (4) 「東中の『誇り』」を胸に、地域とともに魅力ある教育環境づくり・人づくりに努める。

2 本年度の学校重点目標

- (1) 確かな学力を育み、わかる授業づくりを推進する。
- (2) 人権感覚・人権意識を基盤とした学校文化を創造する。
- (3) 「気づき・考え・行動する」主体的な生徒を育成する。
- (4) 特別支援教育の充実を図る。

3 学校教育の基盤

- (1) 信頼される教師・学校
- (2) 開かれた学校

○生徒アンケートの「家庭学習」「学校からの連絡を親に渡していない」また、保護者アンケートの「PTA 活動への積極的な取り組み」「地域行事への積極的参加が出来ていない」割合が多く、少し不安を感じる。生徒の育成については地域としても多に協力したいと思うので、今後も学校と連携しながら取り組んでいきたい。

○挨拶当番で立っていると、たいていの生徒が挨拶を返してくれていたのが嬉しかった。どの生徒も楽しそうに登校する姿を見て安心した。「挨拶が基本」を中学校で指導してくれていると感じた。

学校関係者評価

4 自己評価結果 (A～D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組) 評価指標 および 目標値 (期待される姿)	評価資料	達成 状況	改善の方策
1. 人間として当たり前のことができる集団を育て、人としての心を育てる。	項目 指標	挨拶・服装をはじめ、基本的な生活習慣を確立させることができたか。 誰にでも気持ちのよい挨拶ができ、服装の乱れのない生活ができた。	B	○挨拶、服装、時間を守ることなどの基本的な生活習慣の確立にあたっては、全職員の共通理解のもと、家庭との連絡を密にしながら、学校生活のあらゆる場面で、個々の生徒に応じた指導や対応を行う。 ○日々の学校生活で行う日番、清掃、給食当番がみんなの笑顔のために行う活動であり、ボランティア活動も人の笑顔のために行うことであることを体験を通して理解させたい。 ○生徒1人1人が、「自分のために指導してくれている」と感じられるような言葉がけができるよう教師の研修を積み上げていきたい。 ○ボランティア活動や地域行事への参加を促し、奉仕の精神や地域の方々の思いに触れる機会を多くすること、地域の方々からの声を届けることで意識の向上を図りたい。
	項目 指標	清掃指導やボランティア活動への参加を促す等、生徒の奉仕の心を育てたか。 熱心に清掃に取り組んだ。また、生徒会や地域のボランティア活動に積極的に参加した。		
	項目 指標	生徒の人権を大切にした教育を行い、生徒との信頼関係を築くことができたか。 先生は生徒のことをよく理解しており、頼りになる存在である。		
	項目 指標	学校行事・生徒会行事等への参加を促し、より自主的・実践的な態度の育成ができたか。 学校や地域の行事に積極的に参加し、交流を深めた。		
2. 夢と希望を持ち、笑顔あふれる生徒を育てる。	項目 指標	わかる授業を創造し、生徒たちの自己実現を図り、学習意欲を高めたか。 授業はわかりやすく学習内容は理解できている。生徒はもっと勉強したいと意欲的である。	B	○生徒の学力の実態を把握し、つまづきを克服できるよう指導方法を改善する。それぞれの授業の目標を黒板に表示し、学習の流れと見通しが持てる授業づくりを進める。 ○計画的に家庭学習を課したり、家庭での SNS の使い方や使用時間を考えてもらうなど、家庭と連携しながら家庭学習の時間の確保を図る。 ○基礎学力の定着や向上を図るため、朝の学習タイムの効果的な活用法と評価の在り方や、行事の持ち方を工夫して授業時間を確保する。 ○校区の小学校と授業交流を継続しながら、学習内容についての連携を図り、つまづきポイントなどの把握に努める。 ○デジタル教科書や ICT 機器を使用しながら個々の習熟度に応じた課題の与え方を工夫し、有効な少人数授業の研究を推進する。 ○支援を必要とする生徒に、多くの教師が関わられるよう個別の指導計画、支援計画を活用する。 ○個人からペアへ、そして班から全体で行う活動の中で、全ての生徒に発言・表現のチャンスを与え、思考を深化させる授業づくりを進める。
	項目 指標	家庭との連携を図り、家庭学習の習慣が確立したか。 自主的な家庭学習ができ、宿題等も期日を守って提出できる。		
	項目 指標	授業時数を十分確保できたか。 じっくりと時間をかけた丁寧な指導で、授業がよく分かる。		
	項目 指標	少人数授業など個に応じた指導が十分にできたか。 自分の到達度に応じた指導を受け、学習内容がよく理解できた。		
	項目 指標	特別な支援を要する生徒に対して適切な指導が行われたか。 教師は個別の支援計画を作成し、一人ひとりに応じた指導ができた。		
項目 指標	思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業の創造ができたか。 生徒たちに思考力・判断力・表現力の力が付いた。			

自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎	◎	○中学生が地域の高齢者を手助けしてくれていることを知り、心暖まった。今後もこのような生徒が増えてほしい。 ○挨拶は、まず家庭において家族同士が挨拶できることが大切である。学校にばかり任せる習慣ではない。保護者への啓発を進める必要がある。 ○中学生はよくあいさつをしてくれている。毎日の校門でのあいさつや、地域に出るあいさつ運動の成果だと思う。今後も続けてほしい。 ○幼稚園・保育所への交流訪問等を続けてもらっているのは嬉しいことである。 ○三世交代交流餅つき等のまちづくりの行事に参加してくれてありがたい。これからもたくさんの中学生に参加してもらいたい。
○	◎	○部活動において今年は野球部が県新人大会で準優勝した。30年ぶりに決勝に進出したことを嬉しく思う。他の生徒の目標や励みになってほしい。 ○人権教育の研究発表会があり、全ての生徒が大切にされる授業のあり方を今後も推進してほしい。 ○改善の方策に示された内容を適切に実施することが大切である。 ○SNSの使い方等の学習は行っていると思うが、保護者がしっかり指導できているかが問題である。保護者へどのように伝えていくかを考えてほしい。

A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

観点 (重点目標)	評価項目 (学校・教師の取組)		評価資料	達成 状況	改善の方策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法
	評価指標	および 目標値 (期待される姿)						
3. 楽しく 安心でき 充実した 生活を送 れる学校 づくりを 進める。	項目	教育相談週間(面談)や生活ノートの活用により生徒理解を深めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○生徒との信頼関係を築くためには、生徒の心に寄り添った指導が大切である。生徒アンケートなどを分析しながら、研修を通して指導法の改善を進める。 ○生徒理解のための情報収集と共通理解をより充実させ、個々の生徒に対して組織的で効果的な対応ができるようにする。 ○よりよい明日に繋がる終わりの会など学級経営についての研修を充実させ、若い教職員の指導力向上を図る。 ○部活動においては、試合に勝つ事だけを目標にせず、人間力の向上を目指す。ノー部活デーを設定し生徒の心身の健全な成長の基礎となるバランスの取れた生活の確保を進める。 ○不登校生徒の指導は、保護者の思いを受け止めながら、担任だけでなく、カウンセラーやソーシャルワーカーと連携しながら進める。別室の利用、関係機関への相談等それぞれの生徒に応じた多方面からの対応を推進する。	○	○	○安心して学校生活を送ってほしいとアンケートで回答している保護者が多い学年がある。しっかり受け止めて保護者も生徒も安心して過ごせる学校を目指してほしい。 ○生徒が安心して中学校生活を送るためには、生徒、先生、保護者の三者が信頼できる深い絆を持ち続けることが大切である。 ○本年度も不登校生徒の数が多いたのが気になる。進路等の相談をしっかりとやってほしい。 ○規範意識を高めるには、家庭における教育が重要である。子どもが幼い時から、親がまず見本を示すことが規範意識を育てる基礎になる。学校だけで取り組むのではなく、保護者との連携が必要である。
	指標	先生は私のことをよく理解してくれ、困ったときに先生に相談できた。						
	項目	楽しく安心できる学校づくりに努めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート					
	指標	学校に愛着を持ち、毎日登校することが楽しい。						
	項目	学級経営等の工夫により、生徒は充実した学校(学級)生活を送っているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
4. 東中を 学びの場 としてふ さわしい 環境にする。	項目	教室や廊下には生徒の作品やポスター類がきれいに掲示されるなど、環境が整備されているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○生徒会の委員会活動を更に活性化させ、具体的な活動方法を学習させることにより、校内の美化に対する関心を高め、その実践力を育成する。 ○清掃活動を生徒の自己有用感に繋がる活動となるよう意識づける。 ○教職員の使う言葉が生徒たちの言語環境であることを自覚し、生徒の人権を大切に話した話し方、指導の在り方を意識する。 ○普段から生徒の思いや考えを大切に接し方を心がけ、指導後の声かけや変化を見逃さない。 ○仲間を思いやるやさしさが、集団の力を発揮させることを学校行事やコンクールなど体験を通して実感させる。みんなのために頑張ってくれるリーダーの存在を大切にする集団づくりを進める。	○	○	○生徒会が中心となってボランティア活動に取り組まれていることは大変素晴らしい。今後も、地域のボランティア活動を続けてもらいたい。 ○体育祭や文化祭等の行事を見学させてもらい、中学生の頑張りに感動することが多くあった。先生方の指導に頭が下がる思いである。
	指標	教室や廊下には掲示物が整然と貼られ、環境が整っている。						
	項目	掃除がすみずみまで行き届くなど、校舎内外の環境美化に努めているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	校舎内外ともに隅々まで清掃が行き届いている。						
5. 地域に 信頼され る学校づ くりを進 める。	項目	教職員の言葉遣いは人権に配慮された適切なものになっているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○学校だよりとホームページの更新を積極的に行い、学校からの情報を発信する。 ○オープンスクールの実施については、回覧板などにより広報に努め、より多くの保護者や地域住民に参加してもらえるような工夫をする。 ○オープンスクールを保護者の要望に応じて柔軟に実施できるようにする。 ○生徒や教職員が地域行事に積極的に参加する。地域からの声が生徒に届くような情報を発信する。 ○生徒、保護者、地域に信頼される教職員になるためにさらに一層の職務への専念、服務規律への確立に努める。 ○自治会、青少年育成推進委員、防犯委員、民生児童委員など、青少年の育成に関与しておられる方々の協力が引き続き得られるような教育活動を展開する。 ○日々の校内巡視や、月2回の安全点検、交通立番指導等の徹底を図る。 ○校舎内外の環境整備や学習指導(教師の補助的作業)等にも地域の方のご協力が得られるような方策を検討する。	○	◎	○ホームページの教育行事予定表等の更新を積極的にしていただきたい。 ○オープンスクールと学級懇談会が実施されたことを聞いて、授業への向き合い方などについて保護者が子どもと積極的に向き合ってもらいたいと感じた。地域としても機会があれば保護者へ啓発していきたい。 ○地域との連携で、各地区の清掃活動や防災訓練への中学生の参加が少ない。小学生までは参加する親と一緒に参加するが、中学生は思春期であることや部活動などの関係から難しいのかもしれない。
	指標	生徒や保護者に対して人権に配慮した適切な言葉遣いができている。						
	項目	生徒会活動は活発で、自治的・主体的・自律的な活動が行われているか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	生徒会の委員会活動等は活発で、生徒は自主的に活動できる。						
	項目	学校だよりやHPなどで学校の情報を家庭や地域に発信したか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	保護者や地域住民は、学校の状況をよく理解している。						
	項目	オープンスクール等を推進し、保護者や地域の人たちの生徒理解・学校理解を進めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	保護者や地域住民は学校行事等に積極的に参加し、また、教育活動に協力的である。						
3. 楽しく 安心でき 充実した 生活を送 れる学校 づくりを 進める。	項目	地域行事への参加・協力を通して、学校と地域の連携を図ったか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○生徒や教職員が地域行事に積極的に参加する。地域からの声が生徒に届くような情報を発信する。 ○生徒、保護者、地域に信頼される教職員になるためにさらに一層の職務への専念、服務規律への確立に努める。 ○自治会、青少年育成推進委員、防犯委員、民生児童委員など、青少年の育成に関与しておられる方々の協力が引き続き得られるような教育活動を展開する。 ○日々の校内巡視や、月2回の安全点検、交通立番指導等の徹底を図る。 ○校舎内外の環境整備や学習指導(教師の補助的作業)等にも地域の方のご協力が得られるような方策を検討する。	○	◎	○ホームページの教育行事予定表等の更新を積極的にしていただきたい。 ○オープンスクールと学級懇談会が実施されたことを聞いて、授業への向き合い方などについて保護者が子どもと積極的に向き合ってもらいたいと感じた。地域としても機会があれば保護者へ啓発していきたい。 ○地域との連携で、各地区の清掃活動や防災訓練への中学生の参加が少ない。小学生までは参加する親と一緒に参加するが、中学生は思春期であることや部活動などの関係から難しいのかもしれない。
	指標	地域行事に積極的に参加する。						
	項目	P T A活動への協力など、P T Aと効果的な連携を図ったか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	P T Aの協力を得て、教育活動が活性化した。						
	項目	学校評価を適切に行い、次年度への学校教育の指針を作成したか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
	指標	アンケート等で保護者や地域住民の声をくみ取り、次年度の学校経営方針等を策定した。(教師)						
	項目	育成推進委員会などと連携を図り、生徒たちの健全育成を推進したか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価					
指標	地域諸団体の協力を得て、健全育成を推進した。							
3. 楽しく 安心でき 充実した 生活を送 れる学校 づくりを 進める。	項目	安全で安心な学校づくりに取り組んだか	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○生徒や教職員が地域行事に積極的に参加する。地域からの声が生徒に届くような情報を発信する。 ○生徒、保護者、地域に信頼される教職員になるためにさらに一層の職務への専念、服務規律への確立に努める。 ○自治会、青少年育成推進委員、防犯委員、民生児童委員など、青少年の育成に関与しておられる方々の協力が引き続き得られるような教育活動を展開する。 ○日々の校内巡視や、月2回の安全点検、交通立番指導等の徹底を図る。 ○校舎内外の環境整備や学習指導(教師の補助的作業)等にも地域の方のご協力が得られるような方策を検討する。	○	◎	○ホームページの教育行事予定表等の更新を積極的にしていただきたい。 ○オープンスクールと学級懇談会が実施されたことを聞いて、授業への向き合い方などについて保護者が子どもと積極的に向き合ってもらいたいと感じた。地域としても機会があれば保護者へ啓発していきたい。 ○地域との連携で、各地区の清掃活動や防災訓練への中学生の参加が少ない。小学生までは参加する親と一緒に参加するが、中学生は思春期であることや部活動などの関係から難しいのかもしれない。
	指標	定期的な安全点検、校内の巡回等、生徒の安全確保に取り組んだ。(教師)						

A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった ◎：適切である ○：ほぼ適切である △：あまり適切でない ×：適切でない

観 点 (重点目標)	評 価 項 目 (学校・教師の取組)		評価資料	達成 状況	改善の方策	自己評価 は適切か	改善方策 は適切か	課題と来年度具体的改善方法	
	項目	評価指標 および 目標値 (期待される姿)							
6. 人間的なふれあいに基づく生徒指導を進める。	項目	全教育活動を通して、いじめ・暴力のない人間(生徒)関係づくり、学校づくりに努めたか。	生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価	B	○いじめのない「安心して安全な学校」を目指して、人権教育、道徳教育の充実を図る。そのために教師自身が人権感覚を磨き、心に寄り添った指導ができるよう研修を重ねる。 ○不登校生徒については、不登校担当教員をコーディネーターとして学級担任、保護者、S C、S S W、心の教室相談員、赤穂市青少年育成センター（ふれあい教室）等関係機関と連携し、一人ひとりに対応した指導を行う。また、家庭との連絡を継続的に行い、生徒及び保護者への支援を続ける。 ○家庭環境等の影響で基本的な生活習慣が身につけにくい生徒が多い。学校での指導だけでは対応できない難しい課題がある。保護者の指導も含めた、地域の関係団体や関係機関との協力を進める。 ○生徒と教師、生徒同士の適切な関係づくりや、家庭と教師との連携に向け、教職員の資質向上研修を推進する。	○	○	○安心して過ごせる学校は、生徒だけでなく保護者の願いでもある。これからはしっかりと指導して行ってほしい。 ○生徒の様子で気になることは、学校関係者にも積極的に知らせてほしい。困っていることがあれば地域として出来ることは手助けしていききたい。 ○今後、コミュニティスクールを実施するにあたって地域が協力できることは、できるだけやっていきたい。 ○挨拶が一番大切である。挨拶をキーワードにして、生徒の意識を高めていくことが大切である。 ○「あいさつ の声が響く街・思いやりの心があふれる街」をテーマにした保幼小中連携した取り組みは続けてほしい。	
	項目	道徳教育をはじめ全教育活動を通して、他者への思いやりやマナー、命の大切さを学ばせたか							生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価
	項目	問題行動が発生した時には組織的に対応し、早期の解決を図るとともに、未然防止に努めた。							生徒アンケート 保護者アンケート 教師自己評価
	指標	命の大切さが分かり、人の気持ちを大切に仲良くすることができた。							
	指標	教職員は問題行動に対して適切な指導をし、問題行動が減少した。							

自己評価における特記事項

○今年度、後半に授業が成立しにくいクラスが出てきた。そこでオープンスクールと学級懇談会を実施し、保護者に経緯を説明し、協力をお願いした。その後は、そのクラスも落ち着きが戻ってきた。このような事態になったことを受け、その後も職員の中でも危機感を持って対応したが、問題行動を繰り返す場面も見受けられ、組織として対応できていないことを感じた。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

○本年度は2学期より平日1日（火曜日が基本）と土日のどちらか1日をノー部活デーとして設定し、完全実施できた。しかし教職員の勤務時間の適正化が十分に実施されているとは言えない。引き続き勤務時間の適正化に取り組んでいきたい。
○S CやS S W、心の教育相談委員等との連携を充実させ、不登校を生まない取り組みを進める必要がある。